



うき消防の動き

編集・発行
宇城広域連合消防本部
〒869-0419
熊本県宇土市新松原町159-1
TEL0964(22)0554
FAX 0964(22)0270

↓大津波が激流となり街中へ（NHK地震速報より）

南三陸町で約1万人の安否不明

国内観測史上初 “M9”



平成23年3月11日、14時46分、三陸沖を震源とする「東北地方太平洋沖地震」が発生。マグニチュードは、国内観測史上初となるM9を記録。特に地震後発生した巨大津波は最高30メートルを超え、東北地方の沿岸を襲い、東日本の広域にわたり甚大な被害をもたらした。避難者は最大で55万人を超え、3月31日現在、阪神淡路大震災をはるかにしのぐ死者11532人、行方不明者を併せると27973人。（3月31日現在）
また、この地震で福島原発では、世界最大級の原子力事故が発生。消防、自衛隊、警察、関係者により懸命の冷却放水が実施された。まだ予断の許さない状況である。
3月14日、消防庁長官の出勤要請により、県内13消防本部県緊急消防援助隊が被災地へ支援に向かった。当本部からは、1次2次隊併せ、12名、車両2台が出動した。

未曾有の東日本大震災！！ 巨大津波、東北地方沿岸襲う

緊急消防援助隊の1員として

中村亮輔

「地獄絵図」、被災地を見てこの言葉しか浮かばなかった。自分の理解し得る範囲の外側の画面が私の眼に、それも広角で飛び込んできました。

発災から3日後の3月14日、緊急消防援助隊熊本県1次隊106名の1員として当消防本部から車両2台隊員6名で被災地に向け出発しました。緊急車両だけの東北自動車道、福島県通過時はついに歩く人の姿を見ることなく、それが現実の世界であることの実感はできませんでした。

非現実の様相の中での捜索や消火活動、テレビや写真と違い広い視野で見えてしまう人間の眼をうらめしく思わずにはられません。

真横から走る雪が悲しい現実を覆い隠すかのように降り積もります。ただその冷たい雪の下やがれきの下にたくさんの人が発見を待っていると思うと、自身としても人間としても自然の前に無力感を感じずにはられませんでした。

帰署後、普段と変わらない空間がいかに恵まれたものであるか認識せざるをえません。

願わくば、1日も早く行方のわからない人が帰るべき人の元に戻り悲しみの中でそれを乗り越え、被災された方が少しずつ前に進んでいただくことを願ってやみません。



被災された皆様、関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。



← 第1次緊急消防援助隊

↓ 第2次緊急消防援助隊



野尻消防士 宇城代表

消防職員意見発表会 開催



野尻みか

“地域を守る!!”

3月10日（水）宇城広域連合消防本部会議室において、消防職員意見発表会が開催された。宇城消防の未来を担うヤングファイアーマン4名（野尻みか、中川朝貴、中村奏喜、中山哲哉）が信頼される消防像や消防業務の問題点について、日頃考えている意見を熱く発表した。

どの意見にも共通することは、「地域を守る」という強い思い。消防職員らしい大きな声が会場に響いた。

最優秀賞に輝いたのは、当本部初の女性消防職員となった野尻消防士。野尻消防士は消防士の道を選ぶきっかけとなる体験を通して救命リレーの必要性を訴えた。野尻消防士は、来る4月22日、八代市で開催予定の熊本県消防職員意見発表会へ出場する。



中山哲哉

中村奏喜

中川朝貴

発表テーマ

◇ 野尻みか

「つながり」

◇ 中川朝貴

「これからの消防業務」

◇ 中村奏喜

「未来の為に」

◇ 中山哲哉

「地元で勤務して感じたこと」

306・802を更新！

1月24日に南消防署の306号車（救急車）を、3月9日に網田分署の802号車（ポンプ車）の更新をそれぞれ行った。306号車は、ヘッドライトの形状が若干異なるほか、大きな変更は少ない。802号車は、電動アシスト付きのホースカーを搭載し、従来のポンプ車に比べ、ポンプ能力が30%ほどアップしている。

「旧802号車に比べると、車高が高いので網田分署管内にはこれまで以上に注意を払わなければならない箇所がある。しかし、これから枯れ草火災が多発するシーズンを迎え、水を600ℓ積載しているので応援隊が来るまで何とか踏ん張れそうだ。」と、網田分署員。



← 306号車
（南消防署）



↓ 308号車
（網田分署）

第4分団、総合優勝！ 女性消防隊、点検の部1位

美里町消防団消防点検

朝から青空が広がる中、3月13日（日）美里町カンントリーパークGにおいて美里町消防点検（団長：大原明和）が行われ、第4分団が総合優勝、女性消防隊が通常点検の部で第1位となった。

東日本大震災のあとだけに中止も検討されたが、放水競技を取りやめ、規模を縮小し開催された。

◇総合の部

①第4分団 ②第1分団 ③第3分団

◇点検の部

①女性消防隊 ②第2分団 ③第1分団



← 第4分団



← 女性消防隊

★福永生一（前南消防署長）



昭和49年に入署以来37年間の長期にわたり皆様には大変お世話になり有り難うございました。心よりお礼申し上げます。こうして大過なく、退職を迎えることができましたのも職員の皆様と、消防関係の皆様のご協力とご指導の賜と深く感謝申し上げます。

振り返ってみますと37年があつという間に過ぎたような気がしています。24時間の署内生活、訓練、

災害出場…、色々な思い出が沢山ありますが、今は全てが楽しい思い出であり、私の宝物であると思っています。好きな消防を自分の一生の仕事として自信を持ってやれたこと、またやってきたことを大変嬉しく、誇りに思っています。

消防は、これから職員定数問題、消防広域問題、消防救急無線のデジタル化問題等、大変な問題が沢山ありますが、消防長をはじめ職員皆様の優れた英知そして若いエネルギーを結集し、こうした問題をクリアーして戴き、未来の宇城広域連合消防本部を築いていただきたいと思います。私はこれから、長い間協力して貰った妻に感謝し二人で旅行したりしてしばらくは心身共にリフレッシュしたいと思っています。また消防に理解ある一市民となりまして消防の発展に応援していきたいと思っています。

最後になりましたが宇城広域連合消防本部の発展と職員の皆様の益々のご活躍とご健勝を心からご祈念いたします。本当に長い間お世話になりました。有り難うございました。

★吉川憲行（前総務課長）



昭和49年4月消防士を拝命、今日まで37年間という長い間大過なく職務を全うできましたことは職員皆様のご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げます。今日までの過去を振り返って

みますと初任科卒業後中分署勤務を振り出しに管内各地で同年代の職員とともに訓練、災害等にごむしゃらに励んだこと、楽しかったこと、苦しかったこと、様々な出来ことや甚大な被害をもたらした災害、特に平成11年9月台風18号による不知火町における高潮災害、平成19年7月美里町における豪雨災害が強く印象に残っております。今、消防本部も消防広域再編、消防救急無線デジタル化等諸問題が山積みしていますが、職員一人ひとりが力を合わせ、住民の安心・安全を確保するためご尽力を頂きたいと思っています。

最後になりますが、消防本部のますますのご発展と、職員皆様方のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ退職の挨拶とさせていただきます。長い間お世話になりました。

★奥村清司

（北消防署2課長）



私事、3月31日をもちまして37年間の消防人生に幕を下ろさせていただきました。

昭和49年4月に採用され頑張ってきたつもりでした。

しかし、40歳を過ぎたころから体に異常を感じるようになり、手術と3ヵ月間の療養を余儀なくされ職場復帰しても他の人に迷惑ばかりかけ、辛さと悔しい思いばかりでした。

人には出会いと別れがありますが、私は皆様の協力と支えにより退職の日を迎えることになりました。ありがとうございました。最後になりますが、皆さまのご活躍を心から祈念いたします。

お疲れ様でした！
退任のご挨拶



★木下博通（南消防署2課副署長）

昭和49年4月に広域消防発足と同時に採用され、37年間の長きにわたり公私ともどもご支援、ご指導を賜り誠にありがとうございました。浅学非才の私が無事に定年退職を迎えられたのも皆様の温かいご援助があったからこそと思っております。

思えば採用されて間もないころ、機関員の辞令を初めて拝命し、火災出動したのが中央北小学校の火災です。出場中真赤な炎を見て、隊長から「落ち着いていけ」という一言で高揚した気持ちを鎮めた記憶が蘇ります。

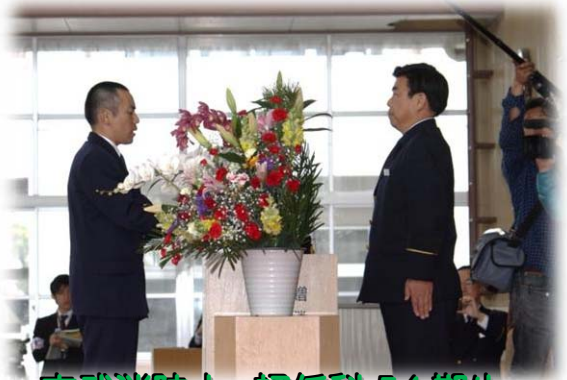
日本経済の高度成長と共に歩み、消防機材の発達や高度な救急・救助体制の確立が出来ました。このような時期に、消防の仕事に携われたことは私の一生の財産であり誇りでもあります。

これから、住民の消防に対する期待は今以上大きくなると思われま。職員の皆様には健康に留意され、更なるご活躍を期待しています。最後になりましたが、宇城広域連合消防本部の益々のご発展と職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ退職のご挨拶といたします。



4月の行事				3月の災害統計(速報)			
日	曜	行 事	場 所		火 災	救 急	救 助
1	金	辞令交付	本部				
8	金	初任科第54期生入校式 熊本県消防長会臨時会	県消防学校	H23.3.31現在	16	1,708	33
14	木	宇城市在住外国人友好協議会総会	宇城市役所	昨年同期	18	1,645	34
19	火	第2回熊本県女性消防操法大会打合せ会議	宇城市役所	増減数	-2	+63	-1
20	水	所属長会議	本部	★ 研修・入校・派遣等			
21	木	平成23年度熊本県消防長会春季総会	八代	○初任科第54期入校 H23.4.7~H23.9.27			
22	金	第34回熊本県消防職員意見発表会	八代	吉武潤・松下宏光・福永祐生・木幡成覇・豊田大祐・白石 健・松影浩平・養田成志・吉住貴央			
26	火	消防協会支部長・市町村消防事務担当課長会議	本部				
27	水	総務課長会議	熊本市				

新職員8名採用!!



吉武消防士、初任科 54 期生
入校式で力強く宣誓!!



よろしく願います!!



写真上段： 吉住貴央、 養田成志、 松影浩平、 白石 健
下段： 松下宏光、 福永祐生、 小幡成覇、 豊田大祐

平成 23 年度 4 月 1 日付で新職員 8 名が採用された。採用職員は、4 月 8 日、桜が満開の中、県内 12 消防本部、新職員 92 名の入校式が熊本県消防学校で挙行された。当本部の吉武消防士が初任科第 54 期生を代表し、「消防の基本を習得し、県民の期待に応えられる消防職員になります」と、力強く宣誓し大役を務めた。なお、初任科生の代表宣誓は、宇城消防始まって以来、初となる。9 月 27 日までの約半年間、寮生活を送りながら、消防の基礎を学ぶ。半年後の彼らの成長が楽しみである。

これが望まれる。

以上が、「JRC (日本版) ガイドライン 2010」の概要について、救急隊の業務に直接関する問題ということで講義された内容です。特に、後半部分の内容について強調されていたのが印象に残りました。



最後に、通信指令員による心停止の認識と口頭指導である。119 番通報の内容から要救助者が心停止を来しているのか否かを見分けるのは必ずしも容易ではない。通信指令員は、通報の内容を吟味し、必要に応じて適切な質問を行うことによって心停止判定の精度を高めることができる。また、心停止を疑う場合には、適切な口頭指導を行う必要がある。

この向上はわが国が過去 10 年間で成し遂げた生存率の向上 (1.8%) に比肩するものである。

次に、救急隊応答時間 (119 番入電から現場到着まで) の短縮であるが、心停止患者に対する救急隊の応答時間を短縮することは、従来から、病院前救護体制における重要な課題であるとされている。例えば、カナダのある地域では、応答時間を平均 1.4 分短縮することによって、心停止患者全体の生存率を 1.4% 向上させている。

また、第 5 章「急性冠症候群」および第 7 章「教育と普及のための方策」においても、救急隊に関連するいくつかの重要な提言を行っている。

まず、病院前 12 誘導心電図であるが、救急隊が病院前 (現場) で 12 誘導心電図による検査を行い、ST 上昇等、急性冠症候群を疑わせる所見の有無を確認することによって、急性冠症候群の患者転機が改善することが示されている。

今回の改定では救急救命士を含む救急隊の活動を大きく修正すべきほどの変更はないが、その考え方には重要な変更も含まれている。救急隊による心肺蘇生では、心肺蘇生 (CPR) の開始手順・胸骨圧迫の深さ・胸骨圧迫のテンポ・胸骨圧迫の位置・電気ショック前の CPR (CPR - first) ・小児の除細動・Smart AED (胸骨圧迫による心電図上のアーチファクトを電気的フィルタリングによって取り除き、胸骨圧迫を中断することなく心電図を解析できる新しい AED (Smart AED) の開発が進行中である) ・気管挿管とカプノメータ・アドレナリン投与などが該当する項目になる。

また、第 5 章「急性冠症候群」および第 7 章「教育と普及のための方策」においても、救急隊に関連するいくつかの重要な提言を行っている。



ガイドライン 2010 JRCN 南消防署 岩村克彦

3 月 2 日消防学校での救急科一般研修で、「JRC (日本版) ガイドライン 2010」作成に関与された救急救命九州研修所、畑中哲夫教授の講演がありましたので、その内容を紹介します。

2010 年 10 月 18 日、国際蘇生連絡委員会 (ILCOR) は 3000 件以上の蘇生研究を検索・吟味して、現在の蘇生科学に関する国際的な統一見解 (コンセンサス) をまとめた「COSTR 2010」を公表した。これに基づいて我が国では「JRC (日本版) ガイドライン 2010」が作成された。内容は第 1 章、1 次救命処置 (BLS)、第 2 章、成人の 2 次救命処置 (ALS)、第 3 章、小児の蘇生 (PBLIS、PALS)、第 4 章、新生児の蘇生 (NCPRI)、第 5 章、急性冠症候群 (ACS)、第 6 章、神経蘇生、第 7 章、教育と普及のための方策とにわかれていた。

宇城の昂

NO.4



南消防署小川分署2係
福島健二（夫妻）

早いもので職員として36年の歳月が流れました。私が経験した中で一番落ち込んだことを書きたいと思います。

それは家庭を持ち10年が過ぎた12月のことです。職場の忘年会がホテルで行われていました。始まって間もなく、1本の電話が私のところに入ります。内容は、妻が倒れ救急車で病院に搬送されているとの連絡でした。突然聞かされた連絡に急いで病院に駆けつけると、そこには物言わぬ妻の姿がICUのベッドにありました。聞かされた病名は「脳出血」でした。このとき私の頭の中は、いろいろな考えが駆け巡りますが、整理することができませんでした。これから先の生活、妻や2人の子供のこと、仕事のことなどなど。

それでも2人の子供のことは私の母に面倒をみてもらい、私は休みの日には病院と自宅を行き来し、6カ月という長い間不安定な生活を送りました。

この間、私の周りの家族や職場仲間、友人に励まされ助けられどうにか勤務することができました。妻は6ヶ月の入院後、無事退院。障害は残りましたが2人子供たちは大変喜び笑顔で迎えてくれました。このことは私も嬉しく今でも鮮明に覚えています。

この様なことがあり、その時私を励まし助けてくれた職場の人、友人、家族には今でも深く感謝しています。今お悩みのあなた、悩んだ時は周りの人に相談しましょう。「家庭あつての仕事」「仕事あつての家庭」。

☆私を勇気づける応援歌…「岸壁の母」

母はきましくた

テコボン駅伝

通信指令課2係 小松遼



3月6日、私達うきしょうランナーズは不知火町デコボン駅伝に出場しました。当日は肌寒い雨の降る中、アップダウンの激しいコースを走るという悪条件でしたが、3位という好成績を残すことが出来ました。私は決して速くはありませんが、皆が一生命懸命繋いでくれたタスキの力で、自分の力以上の走りが出来ているのかなと思います。走ることはとても苦しいですが、自分の役割を全うし、終わった後の達成感はとても素晴らしいです。駅伝部での経験を糧に、体力錬成と共に、消防の業務に活かしていきたいです。

タスキの力

近年、「パワーハラメント」という言葉があります。これは、上司、個人あるいは組織が与えられた「職権」を使って相手の人格・人権を否定するような言動を行う嫌がらせと言われています。

「パワーハラ」は、被害者の心身にダメージを与えるほか、職場の士気を低下させ、職場のイメージダウンにもつながりかねません。

日頃から職場内のコミュニケーションを円滑にし、パワーハラ予防に努めることが大切です。



思い愛あい

結婚おめでとう！



南消防署 三角分署2係
消防士 中山哲哉

「パートナー」 結花（旧姓 和田）

- ・入籍日 平成22年6月15日
- ・挙式日 平成23年3月21日

★ 馴れ初めは？

♂…先輩の紹介?? (合コン)。

★ 互いの第一印象は？

- ♂…小さくて可愛い！
- ♀…優しそう

★ プロポーズの言葉は？

♂…秘密です！

★ 生活の信条または目標は？

♡早く子供が欲しいです♡

★ パートナーへ一言

- ♂…バタバタしないで下さい。
- ♀…いつも寝過ぎです。

★ 全国消防長会

◇ 永年勤続功労章

* 木下亮二

★ 消防庁長官

◇ 永年勤続功労章

* 吉川憲行

* 福永生一

★ 日本消防協会

◇ 功績賞

* 木下亮二

◇ 精績章

* 橘 忠義

* 園田政春

◇ 勤続章

* 岩本和也

* 谷川英明

* 山本計広

* 浦田宗朋

* 星田浩治

* 前田修一

* 坂本勝夫

* 長山 誠





南消防署 2課
成松晴幸

広域消防が発足し30有余年、今まさに世代交替の時期である。礎を築いて頂いた先輩方がまとまって退職されている。消防の仕組み、社会のことなど何も知らずに採用試験を受けたことを思い出す。採用後は諸先輩方より、機関運用、手入れなど手取り、足取り指導を受けた。ある日の朝の車の車両の手入れ時、泥で汚れたタイヤを洗っていると、ある先輩から「そぎゃん洗い方しとったつちや、機関員にはなられんぞ！」と、即、その先輩はホースを取り上げ、タワシを持ってきてタイヤの溝にあわせて洗い出した。そして「消防車、救急車は自分たちの飯の種類だけ、いつもピカピカにしとかなでけん。きれいにしといて絶対損はせん」と。なぜ注意を受けたのか分からなかったが、自分は洗車ブラシで表面だけ水洗いをしていただけであった。その時は何のことだろうと余り考えもしなかったが、数年経ち機関員となつて初めて気付き、忘れることのできない言葉になった。いつもピカピカにすることに、自分が担当車両の隅々まで自分のものとなり、何があつてもまかせなさい、そして何事に対しても目配り気配りが養えた。それから数十年経つた今、振り返ってみるとほんの少しの言葉、行動でも先輩の教えが今までの消防活動に留まらず、生活面に対しても影響を与えていたのだと。こういつた教えを受けた時、如何に自分のものにするかができるのか残り少ない消防人生で次世代へと繋いでいけたらと。

最後に若い職員に「高下存心」（上手くいくも行かないも心がけ次第）のこぼれを贈り、文を締めたいと思います。最後に激震災害に遭われた被災者の皆様のご苦労と、各緊急援助隊の活動に敬意を表します。

私を勇気づける応援歌 長瀬 剛「乾杯」—— 人生の大きな舞台に立ち・♪。

～「うき消防の動き」廃刊のお知らせ～

本紙は、昭和 62 年 9 月に第 1 号が発刊され、それから約 24 年間、宇城消防の足跡を稚拙ながら地道に伝えて参りました。しかし、職員数の不足及び業務量の増大によりこの 267 号で廃刊の運びとなりました。

今後は、ホームページや管内へ配布しております広報「うきしょうぼう」の充実を図り、さらに皆さんに親しまれる広報、役に立つ広報を目指して行きたいと思っております。

最後になりましたが、これまでたくさんの皆様にお世話になり、心より厚くお礼申し上げます。



いよいよ、明日の出番を待つ新幹線（熊本市富合町の九州新幹線熊本総合車両所にて h23・3・11）

3月12日、九州新幹線鹿児島ルートが、全線開業した。これにより鹿児島—青森間を貫き、熊本—新大阪間は2時間59分、熊本—博多間は33分となり、大幅の時間短縮となる。

つつさき

▲30年ほど前、地利調査で天草1号橋が見える見晴らしのいい高台にさしかかったとき、畑の傍らにみすぼらしい石碑があった。その石碑は約200年前（寛政4年）、「島原大變肥後迷惑」と呼ばれる火山噴火による津波災害を伝えるものであった。まさか有明海でこんなに高い所で津波が来たなんて、「日本昔話のような話だ」と、そのとき思った。それから10数年後、眠りから覚めた雲仙普賢岳が噴火。有明海沿岸では津波の発生が危惧され、大騒ぎとなった。

▲岩手県宮古市の沿岸にありながら東日本大震災の大津波の被害を免れた集落がある。この集落には過去の津波の教訓を伝える石碑があり、地区の人々はその先人の教えを誠実に守ってきた。石碑に記された結びの言葉、「此処より下に家立てるな」。明治、昭和と壊滅的な被害を受け、未来の人への警告として建立されたものだ。実際、今回の大津波も石碑の手前で止まっている。

▲時代が移り変わっても、電気もいらず、発信し続ける石碑。まさに最強の「伝える文化」であると気付かされる。情報洪水時代と呼ばれIT真っ盛りの現代。電気に支えられている文明と文化。本当にこの方向でいいのか。石碑から、これからの広報（伝える文化）のあり方を考えさせられる。

▲いつもこの季節は汗ばむ春の陽気と滴る新緑の中、救助技術訓練真盛りだが、救助技術大会も中止となった。今年は寂しい春。しかし昨日の晩ご飯のおかずは忘れたけど、この春は忘れまい。無念の思いで亡くなった方々を。人を助けるために、任務を遂行し海に消えた人々を。この歴史を、教訓を、胸を押し付ける悲しみを、伝え続けなければならない。いずれ風化しようとも。我々は。（正盆マン）

“どこから来られたんですかー？”

東京駅から23時30分発の臨時夜行バスで盛岡へ。バスを乗り継ぎ、翌25日午前11時、目的地の陸前高田市に到着。陸前高田市は、人口2万3千人中、今だ9千人以上の住民と、市役所職員40名弱が未だ不明。あまりの被害の大きさから救援活動が遅れ、隅々の被災地まで救援物資が行き届いておらず、多くの世帯が停電状況。到着初日は救援物資の仕分け作業。毎日の作業後の雑談では、「今日、埋もれていた親父が見つかりました」、「帰ったらまた避難所でカップ麺です。発災からずっと1日2食です。」など、次々と個々の状況が交わされ、スタッフの方々も皆、被災者であることと深い心の傷を負っていることを知り、改めて災害がもたらした被害の大きさを知りました。初日の作業がひと段落した時、男性スタッフの方が、「どこから来られたんですか？」と尋ねました。「熊本から来ました」と答えると、「見物に来られたんですか？」と言われました。連日無我夢中で支援活動を行い、疲れも精神状態もピークを迎えた時期のボランティアは、物見遊山に映るのも無理からぬこととはいえ、この言葉は少し堪えました。が、滞在中の4日間で私の人となりを見て頂くしかありません。

26日は救援物資の仕分け作業、27、28日は、各地区をつぶさに回り、被災家族の把握と必要な物資の聞き取り調査を行いました。

27日の作業後、会話の輪から外れてポツンと外を見ていた私に「コーヒー飲みませんか？」と、初日に「見物に来られたんですか？」と尋ねた男性が笑顔で差し出された時、「仲間に入れてもらえたのかなあ」と嬉しくなりました。

《岩本司令の岩手陸前高田市災害ボランティア活動記録（3/24～29）より一部抜粋》

